

海外派遣研修助成事業による研修の成果

研 修 者 氏 名	大橋 史弥 
所 属 機 関	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
<ul style="list-style-type: none"> ・研修に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	<p>The University of Nottingham International research and development summer school</p>
渡 航 期 間	自 2019/08/31 至 2019/09/08
<ul style="list-style-type: none"> ・研 修 内 容 ・国際学会・会議内容 	世界各国の研究者約 100 名により、がん術後のリンパ浮腫や創傷ケアに関する講義・演習、臨床調査を実施した。自身の研究活動報告を行い、海外研究者との討論を行った。
<p>研修成果 (要約 : 800 字)</p> <p>研修成果 1 : 世界の研究者との討論・今後の研究活動への邁進</p> <p>自身の研究活動「Development of a compression device for chronic lower limb edema management, specialized for people of advanced age with low activity levels」について、世界各国の研究者に対しプレゼンテーションを実施、質疑応答を通して今後の研究活動に対する示唆を得た。英語による国籍を超えたコミュニケーションは、私にとって初挑戦であり刺激的な瞬間であった。国際的に活躍ができる研究者を目指す者として、海外勢の積極性や研究熱意に学ぶものは大きい。特に、博士後期課程在学中に海外研修に参加することで視野の広がりを感じた。今後も看護学の国際化に貢献できるよう海外挑戦を継続していきたい。</p> <p>研修成果 2 : 日本が誇るアドバンスドテクノロジーを海外の研究者・臨床家と共有</p> <p>自身が所属する金沢大学と東京大学は、がん術後に発生するリンパ浮腫管理等の創傷に対して、サーモグラフィや超音波画像診断装置を用いた可視化を行い、早期発見及び予防に取り組んできた。これらの技術を世界に向け発信し共有することは、より多くのがん患者の未来を救うことに繋がる。今回の研修では実際に上記の器機に触れる演習を東京大学と共同で開催した。</p> <p>ノッティンガム大学附属病院に赴き、デンマークの皮膚科医とウガンダの看護師とチームになり、実際に入院されている患者の創傷に対してアセスメントを行った。療養環境が国々で異なる中で、自国の創傷ケアや他国のケアを学ぶ良い機会となった。</p> <p>貴財団の助成金を頂戴し本研修に参加することができ、一流の研究者や臨床家と触れ合うことに発展しました。さらに国際的に活躍ができる研究者に成長するべく自身の知識・技術・看護観を磨き、臨床現場や研究活動に還元をしていきたいと思っております。(800 字)</p>	

1) 研究発表の実施・質疑応答



2) ハンズオンセミナー：超音波画像診断装置を用いた褥瘡アセスメント



3) 本セミナー主催者のMoffat 教授との記念撮影





This is to certify that



Attended the

**Nottingham Trent University and
Nottingham University Hospitals
NHS Trust**

**Skin Integrity Wound
Assessment Audit**

On the 4th September 2019